

●薬価基準収載医薬品（2019.11.27）－報告品目・新キット製品－

【17成分58品目】

内用薬

薬価 収載日	薬効分類名	商品名	規格 単位	薬価(円)	製造販売 会社名	成分名	効能・効果	用法・用量	備考
11/27	V ₂ -受容体拮抗剤	サムスカOD錠 7.5mg	7.5mg1錠	1,298.50	大塚製薬	トルバプタン	●ループ利尿薬等の他の利尿薬で効果不十分な心不全における体液貯留 ●ループ利尿薬等の他の利尿薬で効果不十分な肝硬変における体液貯留 ●腎容積が既に増大しており、かつ、腎容積の増大速度が速い常染色体優性多発性のう胞腎の進行抑制	●心不全における体液貯留の場合 通常、成人にはトルバプタンとして15mgを1日1回経口投与する。 ●肝硬変における体液貯留の場合 通常、成人にはトルバプタンとして7.5mgを1日1回経口投与する。 ●常染色体優性多発性のう胞腎の進行抑制の場合 通常、成人にはトルバプタンとして1日60mgを2回（朝45mg、夕方15mg）に分けて経口投与を開始する。1日60mgの用量で1週間以上投与し、忍容性がある場合には、1日90mg（朝60mg、夕方30mg）、1日120mg（朝90mg、夕方30mg）と1週間以上の間隔を空けて段階的に増量する。なお、忍容性に応じて適宜増減するが、最高用量は1日120mgまでとする。	既存の剤形（7.5mg錠、15mg錠、30mg錠、1%顆粒）に新剤形（OD錠）追加。
		サムスカOD錠 15mg	15mg1錠	1,975.40			●ループ利尿薬等の他の利尿薬で効果不十分な心不全における体液貯留 ●腎容積が既に増大しており、かつ、腎容積の増大速度が速い常染色体優性多発性のう胞腎の進行抑制		
		サムスカOD錠 30mg	30mg1錠	2,999.90			●腎容積が既に増大しており、かつ、腎容積の増大速度が速い常染色体優性多発性のう胞腎の進行抑制		
11/27	持続性選択的DPP-4阻害剤 2型糖尿病治療剤	ザファテック錠 25mg	25mg1錠	278.40	武田薬品工業	トセラグリプチンコハク酸塩	2型糖尿病	通常、成人にはトセラグリプチンとして100mgを1週間に1回経口投与する。	既存の規格（50mg/100mg）に新規格（25mg）追加。
11/27	抗悪性腫瘍剤/チロシンキナーゼ阻害剤	ジカディア錠 150mg	150mg1錠	6,413.60	バルティスファーム	セリチニブ	ALK融合遺伝子陽性の切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌	通常、成人にはセリチニブとして450mgを1日1回、食後に経口投与する。なお、患者の状態により適宜減量する。	既存の剤形（150mgカプセル）に新剤形（150mg錠）追加。

注射薬

薬価 収載日	薬効分類名	商品名	規格 単位	薬価(円)	製造販売 会社名	成分名	効能・効果	用法・用量	備考
11/27	骨粗鬆症治療剤	テリボン皮下注 28.2μgオートインジェクター	28.2μg1キット	6,018	旭化成ファーム	テリパラチド酢酸塩	骨折の危険性の高い骨粗鬆症	通常、成人には、テリパラチドとして28.2μgを1日1回、週に2回皮下注射する。なお、本剤の投与は24か月間までとすること。	1回投与量を既存品（皮下注用56.5μg）の半量にし、1回使い切りとしたオートインジェクター製剤。

薬価 取載日	薬効分類名	商品名	規格 単位	薬価(円)	製造販売 会社名	成分名	効能・効果	用法・用量	備考	
11/27	骨粗鬆症治療剤	テリパラチドBS皮下注キット600µg「モチダ」	600µg1 キット	26,491	持田製薬	テリパラチド (遺伝子組換え) [テリ パラチド後続 1]	骨折の危険性の高い骨粗鬆症	通常、成人には1日1回テリパラチド(遺伝子組換え) [テリパラチド後続1] として20µgを皮下に注射する。 なお、本剤の投与は24ヵ月間までとすること。	「フォルテオ®」を先行バイオ医薬品としたバイオ後続品。	
11/27	完全ヒト型 可溶性TNF α/LTaレセプ ター製剤	エタネルセプトBS皮下注10mgシリンジ1.0mL「日医工」	10mg1 mL1筒	3,509	共和薬品 工業 販売元/ 日医工	エタネルセプト (遺伝子組換え) [エタネル セプト後続2]	既存治療で効果不十分な下記疾患 関節リウマチ(関節の構造的損傷の防止を含む) 多関節に活動性を有する若年性特発性 関節炎	関節リウマチ 本剤を、通常、成人にはエタネルセプト(遺伝子組換え) [エタネルセプト後続2] として10~25mgを1日1回、週に2回、又は25~50mgを1日1回、週に1回、皮下注射する。 多関節に活動性を有する若年性特発性関節炎 本剤を、通常、小児にはエタネルセプト(遺伝子組換え) [エタネルセプト後続2] として0.2~0.4mg/kgを1日1回、週に2回、皮下注射する。(小児の1回投与量は成人の標準用量(1回25mg)を上限とすること)	エタネルセプト(遺 伝子組換え) 製 剤のバイオ後続 品。	
		エタネルセプトBS皮下注25mgシリンジ0.5mL「日医工」	25mg0. 5mL1筒	8,675						
		エタネルセプトBS皮下注50mgシリンジ1.0mL「日医工」	50mg1 mL1筒	17,109				既存治療で効果不十分な関節リウマチ(関節の構造的損傷の防止を含む)		関節リウマチ 本剤を、通常、成人にはエタネルセプト(遺伝子組換え) [エタネルセプト後続2] として10~25mgを1日1回、週に2回、又は25~50mgを1日1回、週に1回、皮下注射する。
		エタネルセプトBS皮下注50mgベ ン1.0mL「日医 工」	50mg1 mL1キッ ト	17,246						

薬価 収載日	薬効分類名	商品名	規格 単位	薬価(円)	製造販売 会社名	成分名	効能・効果、用法・用量	備考
11/27	持続型赤血 球造血刺激 因子製剤	ダルベポエチン アルファBS注 5μg シリンジ「JCR」	5μg 0.5mL1 筒	826	J C R ファーマ 販売元/ キッセイ薬 品工業	ダルベポエチン アルファ（遺伝 子組換え） 〔ダルベポエチ ンアルファ後続 1〕	【効能・効果】 腎性貧血 【用法・用量】 <血液透析患者> ・初回用量 成人：通常、成人にはダルベポエチン アルファ（遺伝子組換え）〔ダルベポエチン アルファ後続1〕として、週1回20μgを静脈内投与する。 小児：通常、小児にはダルベポエチン アルファ（遺伝子組換え）〔ダルベポエチン アルファ後続1〕として、週1回0.33μg/kg（最高20μg）を静脈内投与する。 ・エリスロポエチン（エポエチン アルファ（遺伝子組換え）、エポエチン ベータ（遺伝子組換え）等）製剤からの切替え初回用量 成人：通常、成人にはダルベポエチン アルファ（遺伝子組換え）〔ダルベポエチン アルファ後続1〕として、週1回15～60μgを静脈内投与する。 ・維持用量 成人：貧血改善効果が得られたら、通常、成人にはダルベポエチン アルファ（遺伝子組換え）〔ダルベポエチン アルファ後続1〕として、週1回15～60μgを静脈内投与する。週1回投与で貧血改善が維持されている場合には、その時点での1回の投与量の2倍量を開始用量として、2週に1回投与に変更し、2週に1回30～120μgを静脈内投与することができる。 小児：貧血改善効果が得られたら、通常、小児にはダルベポエチン アルファ（遺伝子組換え）〔ダルベポエチン アルファ後続1〕として、週1回5～60μgを静脈内投与する。週1回投与で貧血改善が維持されている場合には、その時点での1回の投与量の2倍量を開始用量として、2週に1回投与に変更し、2週に1回10～120μgを静脈内投与することができる。 なお、いずれの場合も貧血症状の程度、年齢等により適宜増減するが、最高投与量は、1回180μgとする。 <腹膜透析患者及び保存期慢性腎臓病患者> ・初回用量 成人：通常、成人にはダルベポエチン アルファ（遺伝子組換え）〔ダルベポエチン アルファ後続1〕として、2週に1回30μgを皮下又は静脈内投与する。 小児：通常、小児にはダルベポエチン アルファ（遺伝子組換え）〔ダルベポエチン アルファ後続1〕として、2週に1回0.5μg/kg（最高30μg）を皮下又は静脈内投与する。 ・エリスロポエチン（エポエチン アルファ（遺伝子組換え）、エポエチン ベータ（遺伝子組換え）等）製剤からの切替え初回用量 成人：通常、成人にはダルベポエチン アルファ（遺伝子組換え）〔ダルベポエチン アルファ後続1〕として、2週に1回30～120μgを皮下又は静脈内投与する。 小児：通常、小児にはダルベポエチン アルファ（遺伝子組換え）〔ダルベポエチン アルファ後続1〕として、2週に1回10～60μgを皮下又は静脈内投与する。 ・維持用量 成人：貧血改善効果が得られたら、通常、成人にはダルベポエチン アルファ（遺伝子組換え）〔ダルベポエチン アルファ後続1〕として、2週に1回30～120μgを皮下又は静脈内投与する。2週に1回投与で貧血改善が維持されている場合には、その時点での1回の投与量の2倍量を開始用量として、4週に1回投与に変更し、4週に1回60～180μgを皮下又は静脈内投与することができる。 小児：貧血改善効果が得られたら、通常、小児にはダルベポエチン アルファ（遺伝子組換え）〔ダルベポエチン アルファ後続1〕として、2週に1回5～120μgを皮下又は静脈内投与する。2週に1回投与で貧血改善が維持されている場合には、その時点での1回の投与量の2倍量を開始用量として、4週に1回投与に変更し、4週に1回10～180μgを皮下又は静脈内投与することができる。 なお、いずれの場合も貧血症状の程度、年齢等により適宜増減するが、最高投与量は、1回180μgとする。	ダルベポエチン アルファ(ネスブ®)のバイオ後続品。
		ダルベポエチン アルファBS注 10μg シリンジ「JCR」	10μg 0.5mL1 筒	1,459				
		ダルベポエチン アルファBS注 15μg シリンジ「JCR」	15μg 0.5mL1 筒	2,032				
		ダルベポエチン アルファBS注 20μg シリンジ「JCR」	20μg 0.5mL1 筒	2,573				
		ダルベポエチン アルファBS注 30μg シリンジ「JCR」	30μg 0.5mL1 筒	3,586				
		ダルベポエチン アルファBS注 40μg シリンジ「JCR」	40μg 0.5mL1 筒	4,539				
		ダルベポエチン アルファBS注 60μg シリンジ「JCR」	60μg 0.5mL1 筒	6,327				
		ダルベポエチン アルファBS注 120μg シリンジ「JCR」	120μg 0.5mL1 筒	11,162				
		ダルベポエチン アルファBS注 180μg シリンジ「JCR」	180μg 0.5mL1 筒	15,560				

薬価 収載日	薬効分類名	商品名	規格 単位	薬価(円)	製造販売 会社名	成分名	効能・効果、用法・用量	備考
11/27	持続型赤血 球造血刺激 因子製剤	ダルベポエチン アルファBS注5μgシリンジ「三和」	5μg 0.5mL1 筒	826	三和化学 研究所	ダルベポエチン アルファ（遺伝 子組換え） 〔ダルベポエチ ン アルファ後 続2〕	【効能・効果】 腎性貧血 【用法・用量】 <血液透析患者> ・初回用量 成人：通常、成人にはダルベポエチン アルファ（遺伝子組換え）〔ダルベポエチン アルファ後続2〕として、週1回20μgを静脈内投与する。 小児：通常、小児にはダルベポエチン アルファ（遺伝子組換え）〔ダルベポエチン アルファ後続2〕として、週1回0.33μg/kg（最高20μg）を静脈内投与する。 ・エリスロポエチン（エポエチン アルファ（遺伝子組換え）、エポエチン ベータ（遺伝子組換え）等）製剤からの切替え初回用量 成人：通常、成人にはダルベポエチン アルファ（遺伝子組換え）〔ダルベポエチン アルファ後続2〕として、週1回15～60μgを静脈内投与する。 ・維持用量 成人：貧血改善効果が得られたら、通常、成人にはダルベポエチン アルファ（遺伝子組換え）〔ダルベポエチン アルファ後続2〕として、週1回15～60μgを静脈内投与する。週1回投与で貧血改善が維持されている場合には、その時点での1回の投与量の2倍量を開始用量として、2週に1回投与に変更し、2週に1回30～120μgを静脈内投与することができる。 小児：貧血改善効果が得られたら、通常、小児にはダルベポエチン アルファ（遺伝子組換え）〔ダルベポエチン アルファ後続2〕として、週1回5～60μgを静脈内投与する。週1回投与で貧血改善が維持されている場合には、その時点での1回の投与量の2倍量を開始用量として、2週に1回投与に変更し、2週に1回10～120μgを静脈内投与することができる。 なお、いずれの場合も貧血症状の程度、年齢等により適宜増減するが、最高投与量は、1回180μgとする。 <腹膜透析患者及び保存期慢性腎臓病患者> ・初回用量 成人：通常、成人にはダルベポエチン アルファ（遺伝子組換え）〔ダルベポエチン アルファ後続2〕として、2週に1回30μgを皮下又は静脈内投与する。 小児：通常、小児にはダルベポエチン アルファ（遺伝子組換え）〔ダルベポエチン アルファ後続2〕として、2週に1回0.5μg/kg（最高30μg）を皮下又は静脈内投与する。 ・エリスロポエチン（エポエチン アルファ（遺伝子組換え）、エポエチン ベータ（遺伝子組換え）等）製剤からの切替え初回用量 成人：通常、成人にはダルベポエチン アルファ（遺伝子組換え）〔ダルベポエチン アルファ後続2〕として、2週に1回30～120μgを皮下又は静脈内投与する。 小児：通常、小児にはダルベポエチン アルファ（遺伝子組換え）〔ダルベポエチン アルファ後続2〕として、2週に1回10～60μgを皮下又は静脈内投与する。 ・維持用量 成人：貧血改善効果が得られたら、通常、成人にはダルベポエチン アルファ（遺伝子組換え）〔ダルベポエチン アルファ後続2〕として、2週に1回30～120μgを皮下又は静脈内投与する。2週に1回投与で貧血改善が維持されている場合には、その時点での1回の投与量の2倍量を開始用量として、4週に1回投与に変更し、4週に1回60～180μgを皮下又は静脈内投与することができる。 小児：貧血改善効果が得られたら、通常、小児にはダルベポエチン アルファ（遺伝子組換え）〔ダルベポエチン アルファ後続2〕として、2週に1回5～120μgを皮下又は静脈内投与する。2週に1回投与で貧血改善が維持されている場合には、その時点での1回の投与量の2倍量を開始用量として、4週に1回投与に変更し、4週に1回10～180μgを皮下又は静脈内投与することができる。 なお、いずれの場合も貧血症状の程度、年齢等により適宜増減するが、最高投与量は、1回180μgとする。	ダルベポエチン アルファ（ネスプ®）のバイオ後続品。
		ダルベポエチン アルファBS注10μgシリンジ「三和」	10μg 0.5mL1 筒	1,459				
		ダルベポエチン アルファBS注15μgシリンジ「三和」	15μg 0.5mL1 筒	2,032				
		ダルベポエチン アルファBS注20μgシリンジ「三和」	20μg 0.5mL1 筒	2,573				
		ダルベポエチン アルファBS注30μgシリンジ「三和」	30μg 0.5mL1 筒	3,586				
		ダルベポエチン アルファBS注40μgシリンジ「三和」	40μg 0.5mL1 筒	4,539				
		ダルベポエチン アルファBS注60μgシリンジ「三和」	60μg 0.5mL1 筒	6,327				
		ダルベポエチン アルファBS注120μgシリンジ「三和」	120μg 0.5mL1 筒	11,162				
		ダルベポエチン アルファBS注180μgシリンジ「三和」	180μg 0.5mL1 筒	15,560				

薬価 収載日	薬効分類名	商品名	規格 単位	薬価(円)	製造販売 会社名	成分名	効能・効果、用法・用量	備考
11/27	持続型赤血 球造血刺激 因子製剤	ダルベポエチン アル ファBS注射液5 μgシリンジ 「MYL」	5μg 0.5mL1 筒	826	マイラン EPD合同	ダルベポエチン アルファ（遺伝 子組換え） 〔ダルベポエチ ンアルファ後続 3〕	【効能・効果】 腎性貧血 【用法・用量】 <血液透析患者> ・初回用量 成人：通常、成人にはダルベポエチン アルファ（遺伝子組換え）〔ダルベポエチン アルファ後続3〕として、週1回20μgを静脈内投与する。 小児：通常、小児にはダルベポエチン アルファ（遺伝子組換え）〔ダルベポエチン アルファ後続3〕として、週1回0.33μg/kg（最高20μg）を静脈内投与する。 ・エリスロポエチン（エポエチン アルファ（遺伝子組換え）、エポエチン ベータ（遺伝子組換え）等）製剤からの切替え初回用量 成人：通常、成人にはダルベポエチン アルファ（遺伝子組換え）〔ダルベポエチン アルファ後続3〕として、週1回15～60μgを静脈内投与する。 ・維持用量 成人：貧血改善効果が得られたら、通常、成人にはダルベポエチン アルファ（遺伝子組換え）〔ダルベポエチン アルファ後続3〕として、週1回15～60μgを静脈内投与する。週1回投与で貧血改善が維持されている場合には、その時点での1回の投与量の2倍量を開始用量として、2週に1回投与に変更し、2週に1回30～120μgを静脈内投与することができる。 小児：貧血改善効果が得られたら、通常、小児にはダルベポエチン アルファ（遺伝子組換え）〔ダルベポエチン アルファ後続3〕として、週1回5～60μgを静脈内投与する。週1回投与で貧血改善が維持されている場合には、その時点での1回の投与量の2倍量を開始用量として、2週に1回投与に変更し、2週に1回10～120μgを静脈内投与することができる。 なお、いずれの場合も貧血症状の程度、年齢等により適宜増減するが、最高投与量は、1回180μgとする。 <腹膜透析患者及び保存期慢性腎臓病患者> ・初回用量 成人：通常、成人にはダルベポエチン アルファ（遺伝子組換え）〔ダルベポエチン アルファ後続3〕として、2週に1回30μgを皮下又は静脈内投与する。 小児：通常、小児にはダルベポエチン アルファ（遺伝子組換え）〔ダルベポエチン アルファ後続3〕として、2週に1回0.5μg/kg（最高30μg）を皮下又は静脈内投与する。 ・エリスロポエチン（エポエチン アルファ（遺伝子組換え）、エポエチン ベータ（遺伝子組換え）等）製剤からの切替え初回用量 成人：通常、成人にはダルベポエチン アルファ（遺伝子組換え）〔ダルベポエチン アルファ後続3〕として、2週に1回30～120μgを皮下又は静脈内投与する。 小児：通常、小児にはダルベポエチン アルファ（遺伝子組換え）〔ダルベポエチン アルファ後続3〕として、2週に1回10～60μgを皮下又は静脈内投与する。 ・維持用量 成人：貧血改善効果が得られたら、通常、成人にはダルベポエチン アルファ（遺伝子組換え）〔ダルベポエチン アルファ後続3〕として、2週に1回30～120μgを皮下又は静脈内投与する。2週に1回投与で貧血改善が維持されている場合には、その時点での1回の投与量の2倍量を開始用量として、4週に1回投与に変更し、4週に1回60～180μgを皮下又は静脈内投与することができる。 小児：貧血改善効果が得られたら、通常、小児にはダルベポエチン アルファ（遺伝子組換え）〔ダルベポエチン アルファ後続3〕として、2週に1回5～120μgを皮下又は静脈内投与する。2週に1回投与で貧血改善が維持されている場合には、その時点での1回の投与量の2倍量を開始用量として、4週に1回投与に変更し、4週に1回10～180μgを皮下又は静脈内投与することができる。 なお、いずれの場合も貧血症状の程度、年齢等により適宜増減するが、最高投与量は、1回180μgとする。	ダルベポエチン アル ファ(ネスブ®)のバ イオ後続品。
		ダルベポエチン アル ファBS注射液 10μgシリンジ 「MYL」	10μg 0.5mL1 筒	1,459				
		ダルベポエチン アル ファBS注射液 15μgシリンジ 「MYL」	15μg 0.5mL1 筒	2,032				
		ダルベポエチン アル ファBS注射液 20μgシリンジ 「MYL」	20μg 0.5mL1 筒	2,573				
		ダルベポエチン アル ファBS注射液 30μgシリンジ 「MYL」	30μg 0.5mL1 筒	3,586				
		ダルベポエチン アル ファBS注射液 40μgシリンジ 「MYL」	40μg 0.5mL1 筒	4,539				
		ダルベポエチン アル ファBS注射液 60μgシリンジ 「MYL」	60μg 0.5mL1 筒	6,327				
		ダルベポエチン アル ファBS注射液 120μgシリンジ 「MYL」	120μg 0.5mL1 筒	11,162				
		ダルベポエチン アル ファBS注射液 180μgシリンジ 「MYL」	180μg 0.5mL1 筒	15,560				

薬価 収載日	薬効分類名	商品名	規格 単位	薬価(円)	製造販売 会社名	成分名	効能・効果	用法・用量	備考
11/27	抗悪性腫瘍 剤/抗PD- L1ヒト化モノ クローナル抗 体	テセントリク点滴 静注840mg	840mg 14mL1 瓶	448,853	中外製薬	アテゾリズマブ (遺伝子組 換え)	PD-L1陽性のホルモン受容体陰性かつ HER2陰性の手術不能又は再発乳癌	パクリタキセル(アルブミン懸濁型)との併用において、通常、成人にはアテゾリズマブ(遺伝子組換え)として1回840mgを60分かけて2週間間隔で点滴静注する。なお、初回投与の忍容性が良好であれば、2回目以降の投与時間は30分間まで短縮できる。	既存の規格 (1200mg)に新 規格(840mg)追 加。
						PD-L1 : Programmed Death-Ligand 1			
11/27	抗悪性腫瘍 剤/抗VEGF ヒト化モノク ローナル抗体	ペバシズマブBS 点滴静注 100mg「ファイ ザー」	100mg 4mL1瓶	26,492	ファイザー	ペバシズマブ (遺伝子組 換え) [ペバ シズマブ後続 1]	治癒切除不能な進行・再発の結腸・直腸癌	他の抗悪性腫瘍剤との併用において、通常、成人にはペバシズマブ(遺伝子組換え) [ペバシズマブ後続1]として1回5mg/kg(体重)又は10mg/kg(体重)を点滴静脈内注射する。投与間隔は2週間以上とする。	アバスチン®点滴 静注用 100mg/4mL、 400mg/16mL のバイオ後続品。
		ペバシズマブBS 点滴静注 400mg「ファイ ザー」	400mg 16mL1 瓶	100,885	VEGF : Vascular Endothelial Growth Factor (血管内皮増殖因子)				
11/27	抗悪性腫瘍 剤/抗VEGF ヒト化モノク ローナル抗体	ペバシズマブBS 点滴静注 100mg「第一三 共」	100mg 4mL1瓶	26,492	第一三共	ペバシズマブ (遺伝子組 換え) [ペバ シズマブ後続 2]	治癒切除不能な進行・再発の結腸・直腸癌	他の抗悪性腫瘍剤との併用において、通常、成人にはペバシズマブ(遺伝子組換え) [ペバシズマブ後続2]として1回5mg/kg(体重)又は10mg/kg(体重)を点滴静脈内注射する。投与間隔は2週間以上とする。	アバスチン®点滴 静注用 100mg/4mL、 400mg/16mL のバイオ後続品。
		ペバシズマブBS 点滴静注 400mg「第一三 共」	400mg 16mL1 瓶	100,885	VEGF : Vascular Endothelial Growth Factor (血管内皮増殖因子)				
11/27	抗CD20モノ クローナル抗 体	リツキシマブBS点 滴静注100mg 「ファイザー」	100mg 10mL1 瓶	21,247	ファイザー	リツキシマブ (遺伝子組 換え) [リツキ シマブ後続 2]	○CD20陽性のB細胞性非ホジキンリンパ腫 ○免疫抑制状態下のCD20陽性のB細胞 性リンパ増殖性疾患 ○多発血管炎性肉芽腫症、顕微鏡的多発 血管炎	1. <CD20陽性のB細胞性非ホジキンリンパ腫に用いる場合> 通常、成人には、リツキシマブ(遺伝子組換え) [リツキシマブ後続2]として1回量375mg/m2を1週間間隔で点滴静注する。最大投与回数は8回とする。他の抗悪性腫瘍剤と併用する場合は、併用する抗悪性腫瘍剤の投与間隔に合わせて、1サイクルあたり1回投与する。 維持療法に用いる場合は、通常、成人には、リツキシマブ(遺伝子組換え) [リツキシマブ後続2]として1回量375mg/m2を点滴静注する。投与間隔は8週間を目安とし、最大投与回数は12回とする。 <免疫抑制状態下のCD20陽性のB細胞性リンパ増殖性疾患に用いる場合> 通常、リツキシマブ(遺伝子組換え) [リツキシマブ後続2]として1回量375mg/m2を1週間間隔で点滴静注する。最大投与回数は8回とする。 <多発血管炎性肉芽腫症、顕微鏡的多発血管炎に用いる場合> 通常、成人には、リツキシマブ(遺伝子組換え) [リツキシマブ後続2]として1回量375mg/m2を1週間間隔で4回点滴静注する。 2. 本剤は用時生理食塩液又は5%ブドウ糖注射液にて10倍に希釈調製し使用する。	リツキサン®点滴静 注100mg、 500mgのバイオ 後続品。
		リツキシマブBS点 滴静注500mg 「ファイザー」	500mg 50mL1 瓶	104,404	※CD : cluster of differentiation				

薬価 収載日	薬効分類名	商品名	規格 単位	薬価(円)	製造販売 会社名	成分名	効能・効果	用法・用量	備考
11/27	遺伝子組換え血液凝固第Ⅷ因子製剤	アドベイト静注用キット250	250国際単位1キット(溶解液付)	22,431	シャイアー・ジャパン	ルリオクトコグアルファ(遺伝子組換え)	血液凝固第Ⅷ因子欠乏患者に対し、血漿中の血液凝固第Ⅷ因子を補い、その出血傾向を抑制する。	本剤を添付の溶解液5mLで溶解し、緩徐に静脈内注射又は点滴注入する。なお、10mL/分を超えない速度で注入すること。用量は、通常、1回体重1kg当たり10～30国際単位を投与するが、症状に応じて適宜増減する。	アドベイト静注用250、500、1000、1500、2000、3000のキット製品。
		アドベイト静注用キット500	500国際単位1キット(溶解液付)	41,553					
		アドベイト静注用キット1000	1000国際単位1キット(溶解液付)	76,977					
		アドベイト静注用キット1500	1500国際単位1キット(溶解液付)	110,405					
		アドベイト静注用キット2000	2000国際単位1キット(溶解液付)	142,600					
		アドベイト静注用キット3000	3000国際単位1キット(溶解液付)	204,526					
11/27	遺伝子組換え血液凝固第Ⅸ因子アルブミン融合タンパク質製剤	イデルピオン静注用3500	3500国際単位1瓶(溶解液付)	1,190,087	CSLベーリング	アルブトレペノナコグアルファ(遺伝子組換え)	血液凝固第Ⅸ因子欠乏患者における出血傾向の抑制	本剤を添付の溶解液全量で溶解し、緩徐に静脈内に注射する。通常、1回体重1kg当たり50国際単位を投与するが、患者の状態に応じて適宜増減する。定期的に投与する場合、通常、体重1kg当たり35～50国際単位を7日に1回投与する。また、患者の状態に応じて、体重1kg当たり75国際単位の14日に1回投与に変更することもできる。なお、いずれの投与間隔においても投与量は適宜調節するが、1回体重1kg当たり75国際単位を超えないこと。	既存の規格(250、500、1000、2000)に新規格(3500)追加。

外用薬

薬価 収載日	薬効分類名	商品名	規格 単位	薬価(円)	製造販売 会社名	成分名	効能・効果	用法・用量	備 考
11/27	抗アレルギー 点眼剤	アレジオンLX点眼 液0.1%	0.1%1 mL	712.60	参天製薬 提携/日 本ベーリン ガーインゲ ルハイム	エピナスチン塩 酸塩	アレルギー性結膜炎	通常、1回1滴、1日2回（朝、夕）点眼する。	既存の規格 (0.05%)に新規 規格(0.1%)追加。
11/27	経皮吸収型 持続性がん 疼痛治療剤	ラフエンタテープ 1.38mg	1.38mg 1枚	1,222.80	日本臓器 製薬	フェンタニル	非オピオイド鎮痛剤及び弱オピオイド鎮痛剤 で治療困難な下記疾患における鎮痛（ただ し、他のオピオイド鎮痛剤から切り替えて使用 する場合に限る） 中等度から高度の疼痛を伴う各種がん	本剤は、オピオイド鎮痛剤から切り替えて使用する。通常、成人に対し胸部、腹部、 上腕部、大腿部等に貼付し、3日毎（約72時間）に貼り替えて使用する。 初回貼付用量は本剤投与前に使用していたオピオイド鎮痛剤の用法・用量を勘案 して、1.38mg（12.5μg/hr）、2.75mg（25μg/hr）、5.5mg（50μ g/hr）、8.25mg（75μg/hr）のいずれかの用量を選択する。 その後の貼付用量は患者の症状や状態により適宜増減する。	既承認の「デュロ テップ [®] MTパッチ」 と同様、3日間持 続型経皮吸収製 剤。
	ラフエンタテープ 2.75mg	2.75mg 1枚	2,260.80						
	ラフエンタテープ 5.5mg	5.5mg1 枚	4,201.90						
	ラフエンタテープ 8.25mg	8.25mg 1枚	5,855.10						
	ラフエンタテープ 11mg	11mg1 枚	7,883.80						